

# 天文観測施設めぐり (I)

## 南関東

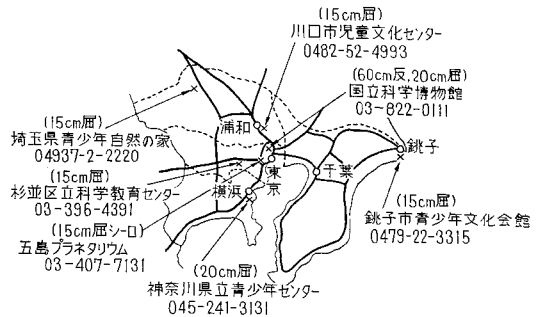
天文の普及を目的とする天文観測施設、すなわちドームのある天体観測室、あるいは小天文台と呼べるようなものは、今から20年ほど前までは、数えるほどしかなかったが、その後急速に増加した公立の科学館や青少年関係施設などの一部として、屋上にその姿をあらわし始め、現在では日本全国でその数が100個所を超えるようになっている。

南関東(東京, 神奈川, 埼玉, 千葉)にある何らかの形で一般公開している小天文台を持っている施設を図示してみた。これらの小天文台の多くは、科学館や青少年関係施設にあるので、プラネタリウムを併設している。このほかに、学校天文台とか、教員研修施設に付随した小天文台やアマチュア個人の持っているマイドームなどもあるが、それらは省略した。

これらの施設の中で、何といてもいちばん早く天体望遠鏡を設置したところは、国立科学博物館であろう。同館屋上にある20cm屈折(日本光学製)は、昭和6年、本館建設と同時に設置されたもので、現在でも毎週土曜日の晴れた日には、日暮から約2時間、夜間天体観測のために一般公開している。神奈川県立青少年センターの屋上には20cm屈折(五藤光学製)があって、昭和37年開館以来、晴れている日には毎日、10時20分と14時20分の2回、太陽黒点観測のための一般公開を行っている。また夜間天体観測の会も適宜行っている。川口市児童文化センターの屋上にも15cm屈折(五藤光学製)があって、晴れた日の土曜、日曜日の14時から15時まで太陽の観察会を、また適宜夜間天体観察会も行っている。また、天文博物館五島プラネタリウムには、シロスタット(15cm屈折, 日本光学製)があって、屋

間晴れていれば、いつでもスクリーン上に投影された太陽像を見ることができる。

その他のところでも、定期または不定期に一般公開をしているので、利用される場合には、あらかじめ公開時刻を問い合わせるとよいであろう。(河原郁夫)



### ◇ 1月の天文暦 ◇

日	時	記	事
1	8	水星	留
2	8	地球	近日点通過
	21	下弦	
6	2	小寒	(太陽黄経 285°)
8	21	月	最近
9	13	朔	
11	18	水星	西方最大離角
16	12	上弦	
19	12	火星	地球最近
20	19	太寒	(太陽黄経 300°)
21	11	月	最遠
22	9	火星	衝
	14	金星	外合
24	17	望	
26	11	冥王星	留

